

海域の概要

本湾は、天草下島の南部に存在する湾で、湾内は複雑に入り組んでおり、西部を天草灘に開いています。湾内では真珠の養殖などが行われています。湾中程の崎津には、隠れキリシタンの崎津天主堂が建てられています。



Specification

諸元

湾口幅：1 48 km

面積：1 1.2 8 km²

湾内最大水深：2 1 m

湾口最大水深：2 1 m

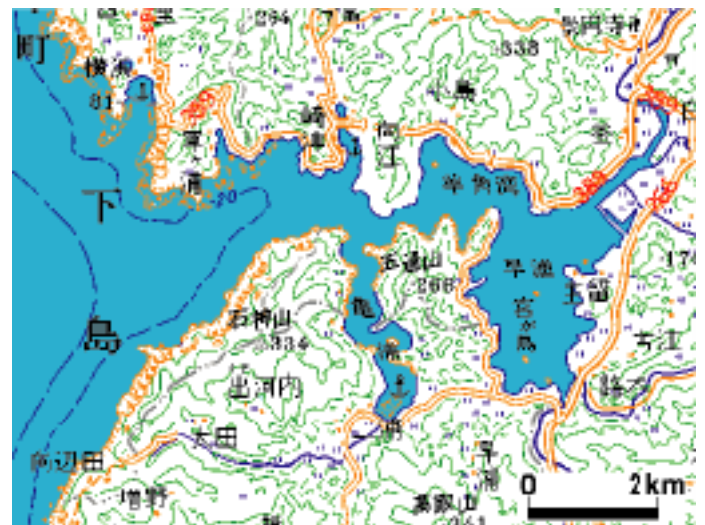
閉鎖度指標：2 2 7

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

熊本県牛深市亀浦三角点(北緯 32 度 16 分 55 秒 東経 130 度 0 分 50 秒) から 338 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



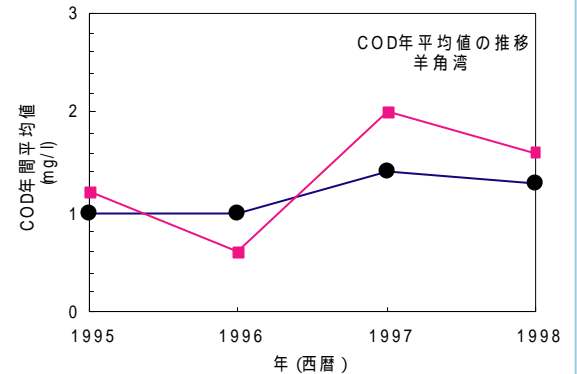
環境

湾口を東シナ海に開いている湾で、沖合を対馬暖流が北上しています。気候は、太平洋岸気候区に属しており、温暖多雨な地域です。

湾奥部には、町田川など数本の中小河川が流入しています。

水質は、全般に良好な状態を保っていますが、湾奥部を中心に悪化する傾向にあります。COD 年平均值では 1~2mg/l の範囲で変動し、緩やかに高い値を示す傾向にあります。

底質は、湾口付近は岩や砂ですが、湾奥部では泥質となっています。



自然

変化に富んだ海岸線、紺碧の海に浮かぶ島しょは海洋景観に優れ、「日本の渚 100選」及び「新しくまもと百景」に選ばれ、雲仙天草国立公園にも指定されています。

湾奥部には干潟が形成され、広いアマモ場も分布しています。近年、ここに絶滅危惧種の「ビョウブガイ」が生息していることが確認されました。「ビョウブガイ」はアマモが生えた内湾の海底にすむ二枚貝で、現在、我が国では博多湾、唐津湾、伊万里湾の3カ所にわずかに生息が確認されているにすぎません。

また、羊角湾は西日本有数の釣り場ですが、水質汚濁や乱獲などでチヌ（クロダイ）の減少が続きました。最近は、チヌの宝庫として復活させるために稚魚の放流が行われています。



チヌ（クロダイ）

文化歴史

牛深市の椎の木崎の遺跡より、縄文時代から人が住んでいたことが確認されています。幕府直轄領の時代を経て、今にいたっています。

また、14世紀末にはキリスト教が伝わり、日本で初めての平家物語等の活版印刷が行われるなど南蛮文化が花開きました。さまざまな歴史を経て信仰が受け継がれ、昭和9年には崎津に教会が建立されました。

産業

農業と漁業が主産業で、特産の中晩柑、胡瓜等に加え、大区画の圃場整備と併せて生産組合と大型機械の導入による低コストの米作りにも取り組んでいます。

漁業面では鯛・ブリ・エビ・真珠等の養殖が盛んです。観光面では、「日本の渚 100選」にも選ばれ、全国的に知名度の高い「崎津天主堂」を拠点に「チャペルの鐘展望公園」、中世時代、河内浦で華開いた世界史に特筆される西洋文化資料等を展示した「天草コレジヨ館」などが核となっています。



崎津天主堂